

### **芳松庵：緑豊かな庭園で抹茶を味わう**

芳松庵（「よい香りのする松の隠れ家」という意味）は1991年、僧侶たちの居住区である旧敷地内に建設されました。9世紀の宮中でお茶を嗜むという習慣を復活させたのが、菅原道真公（845～903年）でした。（当時のお茶は、現在飲まれているものよりも、もっと葉のような味がしていました。）この茶屋はその伝統に敬意を表して創建されました。芳松庵自体は、庭園の東端にある小さな伝統的な茶室ですが、その向かい側にははるかに大きい2階建ての建物があります。両方の建物は、多数の鯉が泳ぐ川が交差する美しい庭園を見下ろしています。茶室への入場料には抹茶と季節の和菓子が含まれています。正しい作法に則ってお茶を召し上がりたい場合、次の手順に従ってください。まず右手で茶碗を取り左掌に置き、茶碗を時計回りに2度回します。こうすることで、茶碗の正面からいただくことを避けることができます。

### **暁天楼：改革派が密議を計ったところ**

芳松庵の庭園に入ったすぐ左手に、暁天楼という古い木の建物があります。この建物はかつて、地元の旅籠の離れで、漬物作りに使われていました。2階へ上がる元々の階段は格納式だったので、密談をするのに理想的な場所でした。この暁天楼で、明治維新の時代に討幕及び王政復古で重要な役割を果たした、多くの地方の武士たちが会っていたのでした。

ここで密談していた「高い志を持った男たち」である志士の中には、明治憲法を草案し、1885年に日本初の首相となった伊藤博文（1841～1909年）、武士以外に武器を持たせることを最初に提案した高杉晋作（1839～1867年）などが含まれています。多くの志士達は、神となった道真公（845～903年）を心の支えとして行動していました。